

## 「開拓魂」

### 京都市北区・原谷地域

都市近郊でも戦後開拓事業が行われた。京都府の26の開拓地のうち、京都市の北区大北山原谷（はらだに）地区は平均標高220mの山間盆地。名刹「金閣寺」の北西、約2kmに位置する。

1948（昭和23）年、中国の東北部・満州開拓からの引揚者19戸が原谷の原野に入植した。同年、洛北（らくほく）開拓農協が設立され、開拓計画を策定した。野菜栽培を計画の柱として開墾したが、土壌は強い酸性重粘土で有機物に乏しく、作物が育たず、苦心が続いた。平行して乳牛・鶏の導入が実施された。

市内だが、開拓当初は電気が通じておらず、ランプ生活だった。50年に京都府の失業対策事業で農道、水路などの建設事業が開始され、同年、ようやく電気が開通した。入植者の団結は堅く、土壌改良を重ね、50年代に農地が完成。酪農・養鶏も本格化した。

失業対策事業は62年まで行われ、開拓地は整備された。環境の改善により、一般の人たちが引っ越してきた。次第に農業を止め、農地を手放し、転業する動きが進んだ。

平成に入ると、市中心部のベッドタウン化し、入植60年目の2008年、開拓農協は解散。敷地は、原谷地域の更なる発展を願い、市に寄附された。

市は10年、その土地に「原谷中央公園」を開園した。公園奥に開拓記念碑「開拓魂」がある。63年の入植15周年記念に建立されたもので、裏面には、入植者全員の氏名が記されている。

#### ・京都府京都市：洛北開拓地区

「開拓魂」農林大臣赤城宗徳書

昭和38年11月吉日建立 15周年記念

#### ○ 碑文

拾五周年を記念して入植者の名を録す

三十八名（氏名略）

昭和三十八年十一月吉日建立

（表面）

（裏面）



#### ○ パネル説明文

昭和二十三年十月十二日、中国（旧満州）より引揚者十九戸が原谷原

野に入植した。

『京都府原谷開拓地』として、開拓総面積五十五ヘクタールを拓き、原谷地区内の町づくりを完成させた。

その年、洛北開拓農業協同組合を設立し、総面積三・六ヘクタールの不動産を所有していたが、平成二十年七月十八日、入植以来六十年を期して解散した。

原谷地域の更なる発展を願い、当該地（原谷中央公園）を、京都市に寄附する事に決した。

記念碑『開拓魂』は入植十五周年記念に建立。碑表面は赤城宗徳農林大臣の揮毫である。碑裏面入植者全員の氏名が記されている。

(パネル説明)

(原谷中央公園)



○ 地区の所在と沿革（洛北農協 40 年記念誌より）

この地区は京都市の西北隅、衣笠山に面する一盆地、市電西大路路線金閣寺前停留所の西北方へ約 2 軒いわゆる名称金閣寺の裏山に位置している。

標高 海拔 280 米から 160 米（平均 220 米）

開拓地の面積

総面積 55 町 4 反

畑 30 町 1 反

宅地 1 町 5 反

導水路 5 町 5 反

薪炭採草地 18 町 3 反

入植者数 18 戸 増反者数 1 戸

入植者 1 戸当 畑 1 町 2 反、 薪炭林 8 反 5 畝 宅地 180 坪

増反者 1 戸当 畑 2 反

洛北開拓農業協同組合は昭和 23 年 11 月に設立、平成 20 年解散。